# 令和６年度　事業報告書
# 上鳥羽北部いきいき市民活動センター

【指定管理者：一般社団法人 上鳥羽絆会】

## １．管理運営の状況

１　施設運営業務

（１）職員体制

センター長１名、職員６名（非常勤７名）

【人材育成の取組】

・職員定例全体会議：全員出席　１回／月　(毎月第１火曜日 午前９時～)

当法人絆会会長も出席して、その月の事業予定の確認、意見交換などを行います。月替わりで議長役を交代して会議進行の技術を身に付けられるようにしています。

・事業会議：随時　各事業の担当者が必要と判断した時にメンバーを集めて進捗状況の確認や意見交換を行います。議事録を職員内で回覧して、センター長が確認します。

・職員研修

「絆会合同研修会」１月：いきいきセンターと中唐戸児童館の両職員が全員出席して互いの施設の事業内容の確認や更なる進歩についての研修を行いました。

「上鳥羽地区基幹ステーション研修会」２月：希望者のみ参加。より良い人間関係を築くための研修。

「救命講習会」１０月：センター長、副センター長が参加。AED の使用方法などを学びました。

（２）貸館等

ア　利用件数

（月別）

| ４月 | ５月 | ６月 | ７月 | ８月 | ９月 | 10 月 | 11 月 | 12 月 | １月 | ２月 | ３月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ４６ | ６７ | ６０ | ６４ | ５３ | ５４ | ５２ | ４５ | ５１ | ５０ | ５５ | ５７ |

（年間）

６５４　件（前年度比　１２３％）

イ　利用状況

前年度と比較すると月毎に安定して増えました。

その理由として、コロナ禍を経て、以前からの継続利用団体の復活と定着がみられました。また、継続団体が利用時間や回数を増やされることもありました。

新規の利用者としては、子育て世代グループの活動の不定期利用や地元団体の定期的な利用、また、吉祥院いきセンの事業でつながった団体が定期利用を開始された、ということ等が挙げられます。

課題としては、継続利用を考えておられる方の希望の曜日や時間が既に継続利用されている団体と重なるケースが数回あったことです。貸館は水曜日～金曜日の午前中か午後一番を希望される場合が多い傾向です。比較的予約が取りやすい日時をご案内するようにしますが、新規の予約につながらないこともあり、もったいなく感じました。逆に土日祝日は空きが目立ち、特に日曜日は利用者が少ないです。そこを何か PR して利用の促進につなげていければと考えます。

ウ　利用促進に向けた取組

６月に第２会議室に大型鏡を設置しました。それを広報誌や SNS で情報発信しました。ダンス系の団体や個人はもちろん、コーラスサークルが歌っている時の表情や姿勢のチェックに使われたりと、喜ばれています。また、通信カラオケ装置は毎月レンタル費用がかかるのでとり止めることが度々会議であがるのですが、当センターの利用促進のポイントとして設置を続けてきました。６年度から地域の末広会がカラオケサークルを立ち上げられたり、センターのいきいき上鳥羽プロジェクト事業での活用がはじまったりと、利用頻度があがりました。また、そこに参加された方が個人的に利用しに来られることにもつながっている実績もみられます。音漏れなど近隣のご迷惑とならないように充分留意しながら、今後も利用促進のツールとして PR していきます。

エ　その他

サロンについて、平常時の自由使用は少なく、事業実施日には一定の参加者があります。サロンを多世代の交流の場とするために、視点を変えた内容の事業を組み入れました。それでも、同じ個人が複数の事業に何度も来てくださるということもあるので、今後も広報に力を入れる、ニーズを探って更に視点を変えた事業を考えるなど新たな参加者の呼び込みを考えていきたいです。

（３）情報発信など

ア　　取組実績

情報発信については、センター独自のものとして、今年度も年間３回「いきセンニュースレターつなぐ」を発行しました。学区全戸に配付しており、手元に残せる情報源として地域の方々に親しまれています。昨年頂いた助言も活かして、貸館利用の促進となるようなセンターの情報はもちろん、地域の緒団体の取組なども掲載することで、読者が地域への理解と愛着を深めるきっかけとなっているのではないかと思います。

事業の広報はＳＮＳや紙媒体のチラシで行いました。ＳＮＳ上で事業の申し込みをされる方も一定数おられます。それでもやはり内容の説明やその場で申し込みが受けられる、「チラシの手渡しによる発信」も当センターでは大切にしています。

イ　　取組の効果

「いきセンニュースレターつなぐ」に上鳥羽小学校内の“郷土資料館”の記事を写真とともに掲載しました。それを見た地域の方が「うちにはこんな民具がある」と連絡をくださったり、「第２回上鳥羽伝承座談会」の出席と語り部を申し出て下さる方が現れたりしました。

（４）管理運営

・センター長を防火管理者に選定
・同法人の中唐戸児童館の避難訓練（火災）に参加
・「救命講習会」に参加
・日常の点検として各部屋、建物外周などを勤務職員が清掃時などに点検：毎日２回
・建物安全点検チェックシートにて点検→自治推進室に報告：毎月１回
・壁、雨水排水、屋上(太陽光パネル)を点検：年２回

・建物総合点検：年１回
・消防点検：年２回
・館内清掃：年２回
・樹木剪定：年１回
・施錠後保安警備：毎日

外部業者に委託

等を実施

（５）その他

「施設運営の質を高めるための取組」「将来に向かって地域と共に進化するための取組」

○　世代間交流や地域間交流に着目

・新型コロナウィルス感染症の影響で休止が続いていた学区のイベント「上鳥羽夏の夜市」が５年ぶりに自治連合会と地域の各種団体の主催で実施されました。センターは事業実施のノウハウを自治連合会と共有し、学区全体の交流事業となるように運営の補助役として地域の方々と協働しました。センターの出展ブースとして、ボランティアさんと共にまつりごみの分別回収コーナー、エコ学区サポートセンターの協力のもとエコ体験ブースを担当したことで、世代間、地域間の交流に貢献する取組ができたのでは、と感じています。

・「上鳥羽エコまちくらぶ」の活動や夏のシェアエアコン事業では、子どもたちが学校の先生や家族以外の大人と関わる経験をする機会となりました。歴史継承事業は学区の歴史を探ることを軸に、世代を超えての交流がうまれました。

○　地域課題や社会課題への取組

・自治連合会によると、町内活動に入らない家庭が増えてきていることが地域課題になってきている、ということがあるそうです。その理由は様々のようですが、そこでのセンターの役割としては、“地域(町内)活動の様子を発信し続ける”ことではないかと考えました。そこで、センター発行の「ニュースレター」に自治連合会活動の記事を毎号載せて、活動への理解と関心を持ってもらう取組をしています。

このように昨年に引き続き、「なくてはならないいきいき市民活動センター」として地域に寄り添いながら並走するいちばん身近な公共施設を目指して取り組みました。

## ２．市民活動支援・活性化事業及びサロン運営・活用事業

### 【事業名】エコ活動事業（市民活動支援・活性化事業）

事業の概要

１　開催日時：　令和６年　４月　～　令和７年　３月

２　開催場所：　上鳥羽北部いきいき市民活動センター、中唐戸児童館、学区内公園
立誠学区と川岡学区の地域イベント会場　梅小路公園　東寺　吉祥院いきセン

３　参加人数：　３９６名（団体）

４　協力団体等：認定ＮＰＯ法人きょうとグリーンファンド、エコ学区サポートセンター、中唐戸児童館、南エコまちステーション、上鳥羽自治連合会、吉祥院いきセン

５　予算：　１，０９０，０００円　／　決算：　１，２４７，１７５円

１　事業内容

○　関係団体や地域の有志がメンバーとなり設立した任意団体「上鳥羽エコまちくらぶ」と連携して様々な環境活動を全世代に向け年間を通して展開し、2030 年環境問題やＳＤＧｓについて関心が深まるような実践や活動参加招致、啓発を行いました。

・エコ体験(８月)：環境について学ぶ体験型のイベントを実施。京都市エコイベント登録有

・自然観察会(６月)：東寺と梅小路公園にて講師の指導のもと植物や昆虫などの生態に触れて自然の尊さを知る、小学生やその親子対象の事業。京都市エコイベント登録有り。

・おでかけエコマルシェ(6,8,10,12,2 月)：学区内５か所公園にて資源物６品目を回収。持参者に「エコなお話」としてエコグッズの展示や紹介。京都市エコイベント登録有り。

・ロケットストーブの製作と展示(通年)：学区内希望者と学区外自治会に製作指導実施。また、中唐戸児童館や吉祥院いきセンのイベント内で展示とデモンストレーションを実施。

・中唐戸児童館との取組(通年)：児童館との連携を一層深め学童世代からのエコの担い手づくりを進めました。エコメイトと共に児童館エコアクションの協働、打合せなど年間を通して実施しました。

２　準備段階での工夫

○　令和５年度に発足した「上鳥羽エコまちくらぶ」が実質的に活動を開始しました。特に“自然観察会”は参加児童 50 名ほどの初めての学区外活動ということもあり、準備段階から児童館職員とともに「子どもたちを楽しく安全に引率する」ための会議をもちました。その結果、学区の交通対策協議会にも誘導等の協力を得ることができました。

３　事業実施による効果・達成度

（１）当初の事業効果，目標等

○　「上鳥羽エコまちクラブ」との連携を軸に“地球温暖化防止”に向けた活動を全世代目線で展開し、活動の担い手育成や自走化を目指すことが目標。

（２）事業実施による目標の達成度

○　全ての事業において、一人でも「上鳥羽エコまちくらぶ」メンバー(エコメイト)が関わることができ、協力体制がとれたことに達成感があります。また、エコ学区サポートセンターとの連携も活発にとることで、JICA の事業※にも参加できたことは、更なる励みとなりました。また、３事業を京都市認定エコイベントに申請登録して事業のエコ化にも積極的に取り組みました。

※JICA 事業：JICA 草の根技術協力事業でマレーシア、インドネシア、タイ、ベトナムの自治体からの参加者が小学校や地域コミュニテイを訪問し活動視察を行う事業。

研修訪問先のひとつとして当センターに依頼があり、日頃の環境活動について発表しました。研修後、マレーシアにおいても地域を巻き込んだ取組を展開すべく、センターの事例が活用されています、との報告を受けています。

4　今後の抱負

○　環境問題については、同じことを何度も繰り返し伝えることが重要ではありますが、やはりマンネリ化してしまうことは否めません。新しい手法や観点などの情報を常に意識することが必要です。活動スタッフ内での勉強会や外部研修への積極的な参加や新しい関係団体との出会いなどにも努めていきたいです。

**【自然観察会】**
東寺・梅小路公園にて

**【エコ体験】**
リサイクル工作
ワークショップ

## ２．市民活動支援・活性化事業及びサロン運営・活用事業

### 【事業名】コミュニテイガーデン「ohana」支援事業（市民活動支援・活性化事業）

事業の概要

１　開催日時：　令和６年　４月　～　令和７年　３月

２　開催場所：　上鳥羽北部いきいき市民活動センター会議室　　コミュニテイガーデン「ohana」

３　参加人数：　延べ２７３名（団体）

４　協力団体等：いきいき上鳥羽プロジェクト、あんしんあんぜん上鳥羽推進委員会、上鳥羽向上委員会

５　予算：　３２５，０００円　／　決算：　３３４，５４８円

１　事業内容

○　地域の声からうまれたコミュニティガーデン「ohana」を拠点として、子どもから高齢者まで多世代の交流をすすめ、地域の活性化、緑化、防犯、自然環境保全に努める任意団体「ohana 会」の活動を年間を通して支援しました。

・花の町づくり事業(通年)：地域団体(あんしんあんぜん上鳥羽推進委員会・上鳥羽向上委員会)と協力体制をとり、河川遊歩道へのプランター設置をすすめました。

・ローズガーデンウィーク開催（5 月）：バラの開花に合わせて他団体と協力しながら 2 週間にわたりイベントを実施。広報や連携などをサポートしました。

・ガーデン勉強会(６月)：専門店から講師を迎え、「バラと仲良く」をテーマに講演会を実施。広報や当日の環境設定などをサポートしました。

・助成金申請情報、書類作成サポート(通年)：センターに送られてくる配架物やメールなどの情報を会員と共有、内容確認など実施。結果、今年度は該当要項ありませんでした。

２　準備段階での工夫

○　「花の町づくり事業」を中心に事業には地域の協力は欠かせないので、会員は普段から積極的に地域の清掃活動などの行事に参加して、そこで活動の PR をするなど地道に動いています。

○　ローズガーデンウィークが近くなると、バラの状態を頻繁に SNS に挙げるなどして PR しました。

３　事業実施による効果・達成度

（１）当初の事業効果，目標等

○　会員と共に活動の拠点となるコミュニティガーデン「ohana」から多角的な取組を発信して、地元だけでなく地域全体が社会活動の良さを実感し、その賛同者や軸となり活動する人材を増やすことが目標。

（２）事業実施による目標の達成度

○　ガーデンの植物は主にバラ科のもので、年間を通しての手入れが必須です。それには知識も必要です。それを担ってくださる方、またそれ以外の活動の協力者が増えて、お任せできることが多くなってきたことは事業の自走化へむけて心強いです。

４　今後の抱負

○　経費節減を考えて花を種から育てる事を試みましたが、発芽から育苗までの管理がうまく出来ず、夏季の高温もあり成功しませんでした。簡単に考えていたことが成功しなかったという経験の共有と、次はどうしようか？という「トライアンドエラー」が

今後の活動の励みと強みになると考えます。
今のところ、令和７年度が支援の最終年度と考えているので、残りの一年を充実させるために沢山の声と力を集めてすすめていきます。

**【花の町づくり事業】**
河川敷遊歩道に
プランター設置

**【ガーデン勉強会】**テーマ：バラと仲良く

## ２．市民活動支援・活性化事業及びサロン運営・活用事業

### 【事業名】いきいき上鳥羽プロジェクト（市民活動支援・活性化事業、サロン運営）

事業の概要

１　開催日時：　令和６年　４月　～　令和７年　３月

２　開催場所：　上鳥羽北部いきいき市民活動センター会議室　学区内公園３か所　上鳥羽小学校

３　参加人数：　２３３６名（団体）

４　協力団体等：上鳥羽ネットワーク　ohana 会　上鳥羽小学校　上鳥羽自治連合会　南エコまちステーション

５　予算：　１，２４０，０００円　／　決算：　１，３８８，４０６円

１　事業内容

○　地域の声から立ち上がった団体「いきいき上鳥羽プロジェクト」のサポートと協働を通して地域課題の解決、個人や団体同士の出会いの場づくりの支援などを行いました。

・ふらっとスペース（5 月、12 月）：上鳥羽ネットワークを軸に個人や団体が参加するマルシェ形式のイベントの実施を支援。12 月は恒例となっているミニしめ縄作りを実施。

・いきいき健康づくり事業(通年)：学区内 3 公園で週 1 回ラジオ体操を実施。

・ニュースレター「つなぐ」発行（8 月、12 月、3 月）：取材と編集をして発行。学区全戸に配付。

・上鳥羽の歴史を探る(通年)：地域の高齢者が伝承者として活躍。上鳥羽小学校と連携して付属施設（郷土資料館）の充実に協力。

・みまもりプランターづくり：地域団体との連携事業。今年は準備作業のみ。

・地域コミュニティ回収(通年)：家庭内ごみの分別の啓発と月 1 回の回収事業を南エコまちステーションの協力で実施。

２　準備段階での工夫

○　ラジオ体操事業は各公園の活動ボランティアさんに運営を任せています。半年に一度合同ボランティア会議を持ち、情報交換等行っています。歴史を探る事業は、小学校が多くの文献を含む資料を保管されているので、互いに協力体制を取りました。

○　ニュースレター「つなぐ」の編集作業を若い世代に少しずつ任せるようにしています。記事の取材はミドル世代のメンバー、最終チェックはセンター職員、というふうに役割分担して作り上げることを目標にすすめました。

３　事業実施による効果・達成度

（1）当初の事業効果，目標等

○　地域の課題、声やニーズを知って事業を計画実施するなかで、市民の自主的な活動を同じ目線で支えながら一部ずつでも自立したものとなるようにすすめることが目標。
地域の歴史・文化・伝統を次世代につなげる事業のなかで多世代間交流や地元を更に大切に思える心の基盤をつくります。

（2）事業実施による目標の達成度

○　プロジェクトメンバーは現役就労世代がほとんどで、活動時間に制限があるなかでも役割を分担して活動を継続されてます。メンバー内での「この活動を持続していきたい」という思いの深まりを感じる場面が増えてきたことを実感します。また、各事業への参加者や協力団体が増えてきていることやそれをきっかけにセンターの他事業へ参加されたり、貸館につながったり、という嬉しい循環があることには達成度は高いです。

4　今後の抱負

○　近年、近隣の事業所や公園でマルシェなどの市民参加型の事業が多く開かれています。そこにできるだけ足を運んで新たなつながりを作ったり、運営の参考になるアイデアを得たいです。また、歴史継承事業は全世代をつなぐ事業になると思うので、事業をすすめる担い手を見つけていくことに力をいれていきます。いずれも事業の柱は参加してくれる市民という考えのもと、次年度もすすめていきます。

【ミニしめ縄作り】

【上鳥羽伝承座談会②】

**【健康づくり事業】**

「いきいきリフレッシュ」

## ２．市民活動支援・活性化事業及びサロン運営・活用事業

### 【事業名】おひさまカフェ（市民活動支援・活性化事業）

事業の概要

１　開催日時：　令和６年　４月　～　令和７年　３月

２　開催場所：　上鳥羽北部いきいき市民活動センター会議室

３　参加人数：　延べ　２４６名（団体）

４　協力団体等：　京都シニア大学朗読愛好会　らくらくピアノグループ等センター利用団体

５　予算：　５５５，０００円　　／　決算：　４９９，２８５円

１　事業内容

○　月に一度、決まった時間に誰もが気軽に足を運んで催しや交流を楽しめる場所づくり年齢や性別を問わず、互いを尊重しあえる場所であることを基本に毎月の事業を展開。同時に活動の企画運営の担い手を探すことも行いました。

・利用者交流会(毎月１回)：センター利用者や事業参加者からのニーズや市民活動をされている方の申し出を活かすなどして、月毎のテーマを実施。

・大人のヨルカイ（毎月１回）：昨年試験的に実施した事業で、参加者からの要望により今年度も継続。

２　準備段階での工夫

○　２月に実施した「流木 DE ワークショップ」は他事業でつながりを持てた、淀川管内河川レンジャーの活動をされている方が講師を申し出て下さり実現しました。吉祥院いきセンでも同ワークショップを開催されるとのことで見学に行きました。また、センター窓口に作品見本を展示することで参加希望者が予想を超えて多数となり、講師本人も驚かれていました。当日は河川保護の話もされて、皆が満足度の高い事業となりました。

３　事業実施による効果・達成度

（１）当初の事業効果，目標等

○　参加者同士の交流のなかで、自ら楽しみを見つけ共有しあうことで自身だけでなく、地域の活性化にもつなげていくことが期待する効果。同時に事業内で「何かやってみたい」の思いを持つ人を支援すること、また、協力者を増やすことが目標。

（２）事業実施による目標の達成度

○　以前にも行っていた“うたごえカフェ”を再開してほしい、という参加者の声とそれの講師をされている方の思いが重なり、年間３回そのテーマが実施できました。主にシニア世代の参加で、「発声することと交流することが活力につながっています」との感想が多くいただくので、目標のひとつは達成できていると感じます。

○　昨年の“クリスマス会”に出演された複数の団体がまた発表の機会を作ってほしいと申し出られたので、今年も“クリスマス会”を実施しました。昨年と同様に参加団体とボランティアスタッフが中心となり当日の運営をお任せしました。貸館利用や事業参加で普段から頻繁に来館されている方たちも多く、当日までの準備や情報の共有も自主的にすすめてもらえることが多かったことも良かった点です。また、夜間事業の「大人のヨルカイ」は参加者のなかの有志が４月からはサークル活動として、貸館を取って活動されることとなりました。

４　今後の抱負

○　「おひさまカフェ」が出会いと交流の場であることが広く認知されること、参加者同士の積極的な交流が自立した活動につながることへの支援を続けます。また、SNS での広報も継続して、広い範囲からの参加者を募ります。コロナ禍以降実施してきたオンライン配信は事業の内容により判断して必要であれば取り入れていきます。

【流木 DE ワークショップ】

【母の日のプレゼント】
「牛乳パックアレンジ
ワークショップ」

## ２．市民活動支援・活性化事業及びサロン運営・活用事業

### 【事業名】なごみスペース～ようこそ～（サロン運営・活用事業）

事業の概要

１　開催日時：　令和６年　４月　～　令和７年　３月

２　開催場所：　上鳥羽北部いきいき市民活動センター サロン

３　参加人数：　延べ　３７９名

４　協力団体等：いきいき絵本クラブ　中唐戸児童館

５　予算：　５４０，０００円　　／　決算：　４９８，１５７円

１　事業内容

○　“個と社会をつなぐ拠点”としてお互いを尊重しあい、多様な年齢層の市民が交流できる“なごみのスペースづくり”を参加者とともに行いました。

「毎週水曜日は集いの日」として、観点が違う事業を展開しました。

・いきいき Wednesday～ようこそ～（通年）：第 2.4 週目は講師を招き軽いストレッチ体操の講座を開催。第 1 週目は「ことしょの活用と本を通した交流」をテーマに活動スタッフがミーティング。第 3 週目は「やってみたい」の声を反映した事業を実施。

・シェアエアコン(8 月)：サロン開館時は誰もが涼めるスポットとして開放。中唐戸児童館の大学生ボランティアの協力で小中学生対象の学習会等も実施。

・講師を招き講習会、講演会(3 月)：事業参加者の声を反映し「伝わる話し方講座」として開催。３０才代~８０才代の方が参加されました。

２　準備段階での工夫

○　講演会の講師はボランティアスタッフの知人にお願いしました。講師との連絡の橋渡し役やチラシ作成、当日の設営や講師対応などそのスタッフが中心に行いました。

３　事業実施による効果・達成度

（１）当初の事業効果，目標等

○　誰もが気軽に立ち寄れ、サロンが多世代間交流の拠点となる場所とすることが目標

（２）事業実施による目標の達成度

○　毎週第 3 週目㈬の事業は地域の方が申し出てくださり、「折り紙の会」を年間を通して実施しました。参加者がその友達に声をかけて、またその友達に…というふうに仲間が増えました。12 月には近くの銀行のロビー展に作品を展示する機会もあり、参加者から「やりがいや楽しみも大きくなっています」との声を聞くと達成感を感じます。

アンケート結果：2 月講演会「伝わる話し方講座」

・先生の話し方が素敵で朗読もしてもらえて感動しました。

・コロナ以降、人との会話が少なくなって声が出しにくくなってきたけれど、また音読や会話を沢山したくなりました。

等の感想がありました。

今後どのような事業を希望されますか？の質問には

・子どもたちと地域の人が関われるようなイベント

・以前はお茶や浴衣着付けの講座があった。今後もしあればやってみたい。

等の意見がありました。

4　今後の抱負

○　今年は活動スタッフの事業への積極的な関りを目指して事業をすすめてきました。日頃のミーティング等でしっかりと話を聞くことや持ちあがった企画をどうすれば実現できるのか？などを丁寧に対応することに努めました。新しい事業も増えて、サロンにやってくる人たちの人数や年齢層も広がってきたと思うので、今後も職員・活動スタッフ・参加者がサロンを拠点として“自分たちがやってみたいこと”をどんどん発信して、より魅力的な事業にしていきたいです。

**【シェアエアコン】**

「学習会」

「みんなで折り紙」

**【ことしょの活用と本を通した交流】**　児童館がやってきた に出演

## ３．利用料金の収入実績及び管理運営に係る経費の収支決算

１　利用料金の収入実績

令和６年度実績　：４６６，１００円（前年度比４３３，６００円）

（内訳　会議室等：４６６，１００円
　　０円　※自主事業分を除く
　　スモールオフィス　　０円）

２　管理運営に係る経費の収支決算

別紙収支決算書のとおり

## ４．施設の利用者満足度の把握

１　利用者満足度の把握状況

（１）全センター共通窓口サービス調査

【実施時期】令和６年１１月実施

【調査項目】窓口サービス

（２）センター独自アンケート

事業実施時にアンケートを実施

２　利用者満足度把握の結果

（１）全センター共通窓口サービス

| たいへん満足 | 満足 | 不満 | たいへん不満 | 無回答 |
|---|---|---|---|---|
| ５７．５％ | ４２．２％ | ０．２％ | ０％ | ０．１％ |

（２）センター独自アンケート

・クリスマス笑ショー(おひさまカフェ)：概ね満足

・流木 DE ワークショップ（おひさまカフェ）：概ね満足

・自然観察会(エコ活動) ：概ね満足

・伝わる話し方講座(サロン事業) ：概ね満足

３　意見等への主な対応状況

○　アンケートではほぼ毎回「場所がわかりにくい」の意見をいただきます。昨年度からホームページや案内リーフレットに付けた二次元コードを読み込むことで最寄りの駅からのルートが詳しく分かるようにしたので、それをしっかりとお伝えしています。外観の分かりにくさ(気がつきにくい)については、外壁の工事などを含めて法人との協議が必要になると思います。

## ５．指定管理者による管理運営業務の自己評価

**取り組んだ事業等の総括**

貸館事業については、昨年より２０％ほど増加しました。以前、月間４回利用されていた団体が利用を再開されたり、活性化事業から立ち上がって貸館利用をされるようになったサークルが複数あったりということが重なった結果だと思います。また、昼間に近隣を通る市バスの系統がひとつ増えて交通の足が増えたことも要因かもしれません。

昨年度の評価報告において“センターが日々丁寧かつ柔軟な姿勢で接している様子がうかがえる”という意見をいただいたことと、利用者の方から「気持ちよく利用してます」と声かけしていただくことが増えたことが私たちの励みになりました。これからも「信頼されるセンター」を目指して、次年度は件数７００件を目標に取り組んでいきます。

市民活動支援・活性化事業及びサロン運営・活用事業については、助言いただいたことを念頭に、すべての事業を通して、引き続き参加者の中から運営側に回れる担い手の発掘と育成に注力しました。そのよい例としてサロン運営事業を挙げます。事業は令和４年から私たち職員も何をすればよいか分からない状態でスタートしたのですが、今では活動スタッフも固定化して、活発な意見交換もできるようになりました。昨年、活動スタッフも所属するサークル「いきいき絵本クラブ」が南区役所保健福祉センター子どもはぐくみ室主催≪児童館がやってきた≫というイベントに依頼されて出演する機会がありました。そこでのお母さんとの会話から「短時間でもお茶を飲みならほっこりできる場所があれば…」の声を活かして「淹れたてのコーヒーを飲みながら交流できる事業を試みては？」とのアイデアがでました。それを尊重し、どうすれば実現できるか？など時間をかけて話し合い、次年度からのサロン新事業として、活動スタッフが中心となりスタートすることになりました。他事業でも自立化に向けたよい傾向がみられるようになってきています。

**今後解決すべき課題**

・体制面では“人員の補強”という点です。開所当時から継続して勤務している職員も数名おり、近隣の方との信頼関係も築けているのはよいことですが、今までのことに囚われずに市民活動支援を共にすすめていけるような人材がこれからのセンターに加われば一層前進できるはずと考えます。それには“職場としても魅力的なセンター”である必要があります。法人とも協議しながら解決方法を探りたいです。

**次年度に向けた対応**

・従前からの強みである「エコ活動事業」をより範囲を広げて展開する計画をたてており、活動のひとつである「ロケットストーブの有用性を広げることと制作」を他のいきセンの事業内で発信させていただけることを年度の終わりに岡崎いきセンさんと醍醐いきセンさんで承諾いただけました。次年度は準備段階からしっかりと話し合いにも参加して、本来の目的の他にも事業展開の手法なども学びたいです。

・個人情報保護やコンプライアンスなど、細心の注意を払い今後も事業をすすめていきます。

## ６．その他施設の管理運営に関する重要又は異例な事項

○　特記すべき管理運営に関する重要又は異例な事項はありませんでした。